

日本民営鉄道協会 「私とみんてつ」小学生新聞コンクール 第10回表彰式を開催

新聞づくりを通じ、子どもたちに鉄道に対する関心と理解を深めてもらうことを目的に、平成19年から開催されている日本民営鉄道協会「『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」。

節目の第10回目を迎えた今年度は、全国555校から6461作品(6498人)の応募があり、厳正な審査を経て、個人部門・学校部門の受賞作品を決定。1月7日(土)に東京で表彰式が行われた。

●鉄道を通じて社会を学ぶ。力作ぞろいの受賞作品

小学生新聞コンクールの募集対象は、小学生全学年。新聞づくりがまだ難しい小学1年生、2年生については「絵日記風の新聞」も受け付けており、総合学習や国語の授業のほか、夏休みの自由研究や宿題に活用する学校も見られる。毎年参加する児童も多く、過去には連続入賞を誇る児童や5年生で最優秀作品賞受賞に輝いた児童、あるいは順番に入賞を果たしたきょうだいやいとこなど、新聞コンクールの広がりを感じさせるほほえましいエピソードも生まれている。

第10回のテーマは、鉄道や駅について興味を持ったことや疑問に感じたことを調べてまとめる「くらしと鉄道」と、鉄道がこれからどのように進化していくかを自由な発想でまとめる「未来

の鉄道」の二つ。レベルの高い作品が集まる新聞コンクールだが、今年度も、時間をかけた下調べや取材、自分の考えや思いを素直につづった文章、写真やイラストを使って工夫を凝らした紙面構成など、子どもたちの熱意と努力がうかがわれる力作が揃った。

●最優秀作品賞は駅ポスターにして掲示

個人部門では、バリアフリー学習プログラムを持つ公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の協賛で「バリアフリー賞」が増設され、各賞で39作品が入賞。最優秀作品賞(文部科学大臣賞)は、湘南白百合学園小学校(神奈川県)・山口彩名さんの作品『相鉄未来新聞 創立百周年直前号』が受賞した。

また学校部門には、第10回を記念して、大手16社より各社沿線の優秀校を選ぶ「各社賞」が設けられ、各賞あわせ34校が入賞した。最優秀学校賞(国土交通大臣賞)は、昨年度に続き、葛飾区立水元小学校(東京都)に贈られた。

日本民営鉄道協会が作成した最優秀作品賞(文部科学大臣賞)受賞作品と最優秀学校賞(国土交通大臣賞)受賞校を紹介するポスターは3月末まで協会加盟社71社の駅に掲出されている。



1 受賞者の皆さんと主催者・後援者の方々 2 最優秀作品賞を受賞した山口彩名さん 3 最優秀学校賞を受賞した葛飾区立水元小学校 4 全国71社約3000の駅に掲出されているポスター



■個人部門 最優秀作品賞(文部科学大臣賞) 1作品、優秀作品賞 6作品、奨励賞 8作品、バリアフリー賞 3作品、佳作 21作品

■学校部門 最優秀学校賞(国土交通大臣賞) 1校、優秀学校賞 4校、奨励賞 6校、各社賞 17校、若草奨励賞 5校、みんてつ学校賞 1校

◎個人賞部門の入賞作品は日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんてつキッズ』で紹介しています。
<http://kids.mintetsu.or.jp>

西武鉄道・東武鉄道・東京メトロ・西日本鉄道 この春、各社の新型車両が次々運行を開始。

“仕事も遊びも”“暮らしも観光も”、利用者の高い着席ニーズに応え、有料座席指定列車として3月25日に運行を開始したのが西武鉄道の新型通勤車両40000系だ。「S-TRAIN（Sトレイン）」の愛称で、平日は通勤利用向けに西武鉄道池袋線～東京メトロ有楽町線経由で所沢～豊洲間を、土休日は外出・観光向けに西武鉄道西武秩父線～東京メトロ副都心線～東急東横線～横浜高速みなとみらい線経由で西武秩父～元町・中華街間を結ぶ。

また、東武鉄道では、同社で26年ぶりの新型特急車両となる500系、愛称「Revaty（リバティ）」の運行を4月21日より開始する。3両固定編成を併結・分割する機能を活かし、東武線の浅草から、途中駅で列車を分割しながら東武日光や鬼怒川温泉など沿線の観光地に向かう。一方、平日の通勤時間帯には、春日部で編成を変え、浅草～春日部間が6両編成、春日部～大宮間・春日部～野田間・大宮～運河間が3両編成になるなどの近距離区間特急として運行される。

●安全性とサービスの向上、省エネルギー化を実現

東京メトロ日比谷線にも、3月25日に新型車両13000系が登場した。平成32年度にかけて44編成を導入し、現行の03系と置き換えていく。車内はシックで都会的なデザインとし、外国人観光客や多様な世代の利用者が快適に利用できるよう細部に配慮して居住性能を高め、環境負荷の軽減を図った。また、利用者の利便性を高めるため、相互直通運転を行う東武スカイツリーラインで近く導入する東武鉄道の70000系と、車両や車内装備などの仕様を共通化している。

西日本鉄道天神大牟田線でも3月20日、新型車両9000形の運行をスタートさせている。既存の3000形車両をベースに安全性とサービスの向上、環境にやさしい省エネルギー化を図った通勤型車両で、今年度中に10両、平成29年度末までに計18両を導入する予定だ。同社における車両のモデルチェンジは11年ぶりとなっている。



西武鉄道40000系「S-TRAIN」



東武鉄道500系「Revaty」



東京メトロ13000系



西日本鉄道9000形